

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A中学校)

第1学年において、1学期末の学級活動の時間にクラスを超えたチームを作り、学年レクとして軽運動を行った。自分のクラスだけでなく他クラスの生徒同士の関わりを増やすことができた。活動の中では、生徒同士が互いに声を掛け合い、協力し合う様子が見られた。

また、休み時間や昼休みの時間には、学年の教職員が教室内や廊下等を巡回し、生徒の様子を見守ったり、生徒と話したりするなど、積極的に声掛けをしている。生徒が教職員に相談しやすい環境をつくっている。



【取組2】(B中学校)

生徒会が主催する企画として「生徒祭」を実施した。各学年1～2名の計6名を1つのグループとして、「なぞなぞ」、「推理ゲーム」、「先生クイズ」、「ボウリング」の4種目に参加する異学年交流活動を行った。昨年度の生徒会役員から、異学年の交流を深める活動をしたいという企画の提案があり、今年度で2回目の実施である。生徒会役員が主体となって企画や準備、当日の運営を行い、参加した生徒も協力して生徒際を楽しむ姿が見られた。

【取組3】(C中学校)

「非認知能力の育成」についての研究を進める中で、様々な教科の授業において少人数グループでの協働的な学習活動や学習目標を達成するための方法を考え話し合う機会を多く設定した。取り組み始めた頃には、なかなか自分の意見を考えて発表することが難しい様子が見られたが、授業での取組を重ねるうちに活発に活動できるようになっている。生徒が自己決定をすることで、学習に主体的にすすんで取り組むことができるようになった。

【取組4】(B中学校)

夏季休業期間に行われた校内研修の中で、不登校生徒への初期対応について、東京都教育委員会が提供する「研修キット」や区の教育委員会が発行する「不登校支援ガイドライン」の内容をまとめて研修を実施した。教職員の不登校支援に対する知識や支援などへの理解力を高めることができた。



多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

支援会議（A中学校）

毎週支援会議を開催し、支援を要する生徒も含めて生徒の情報共有を行っている。会議資料の様式には、つながっている関係機関と担当者、「様子・課題、目標・約束、支援方法」の項目を設定し、前回の記録を併記して変化を見やすくするといった工夫がされている。

アウトリーチによる支援（D中学校）

欠席が続く生徒に対して学級担任とともに家庭訪問を実施し、配布物等を届けた。また、生徒や保護者に対して、いつでも相談しやすいような環境を整えるため、不登校対応巡回教員を紹介するための自己紹介カードを作成し、配布している。

校内別室における支援（C中学校）

1階昇降口横の教室を専用の場所として設定している。室内では、生徒自らがやることを決めて普通教室と同じ机と椅子で学習をしたり、広い机で教職員や他の利用生徒と共に様々な活動をしたりすることができる。

ある生徒は昨年度までは欠席が続いていたが、今年度は不登校対応巡回教員の勤務曜日は登校することができるようになった。生徒は得意なことを生かした活動をしている。



デジタル機器を活用した支援（C中学校）

各学年で1クラス、通常の授業のオンライン配信を行っている。不登校生徒だけではなく、体調面に不安がある生徒も利用することができる。

事前に校内委員会で対応が検討され、本人と保護者からの申請があった場合は「オンライン学習日誌」を提出することでオンラインでの出席扱いにしている。

関係機関との連携（E中学校）

不登校対応巡回教員が月に1回、教育支援センターを訪問している。通室生徒との交流や、スタッフと情報共有を行った様子を学級担任に伝えている。

教育支援センターで関わった生徒が、その後、生徒の在籍校の校内別室に登校して活動をすることができた。

成 果

今年度新たに3校で校内別室を開設することができた。また、不登校対応巡回教員によって、各校の教職員の不登校支援に関する理解を深めたり、生徒を校内別室への登校につなげたりすることができた。

課 題

不登校対応巡回教員の不在時にも校内別室での支援を含めて、不登校生徒への支援の充実を図る必要がある。